

Ch. 2 「主体」の社会学

1. 教育における「主体」の位置

Q 教育でいう「主体」(例:「主体的に学ぶ」)とは何か

2. 社会的被拘束性 (contrainte social, social constraints) ——個人と社会

○Durkheim 著『自殺論』における心理学と社会学

「自殺とは、個人の行為にほかならず、個人のみに関係したものであるため、もっぱら個人的要因によって規定されていなければならないかのようにおもわれる。それゆえに、心理学の領域だけに属するようにおもわれる。(略) それぞれの社会は、歴史の各時点において、ある一定の自殺への傾向をもっている」(『自殺論』訳書 p. 25・26)

○Mills, C. Wright の []¹ (sociological imagination)

「一人の人間の生活と、一つの社会の歴史とは、両者をともに理解することなしにはそのどちらの一つも理解することができない」(『社会学的想像力』訳書 p. 4)

○第二波 []² (second-wave feminism) のスローガン

“Personal is Political” []³